

【1 大川市 Okawa City】



新田大橋から

大川市では、市内を北から南へ流れる筑後川の沿岸や、鐘ヶ江大橋、大川橋、昇開橋、新田大橋などの橋から、筑後川越しに“北面の雲仙岳”が眺望できます(↑)。また、これらの橋や川岸の漁港と雲仙岳のセットの風景を楽しむこともできます。市内の小中学校の校歌には雲仙岳が登場し、古くから地域で親しまれてきたことが分かります。

筑後川昇開橋は、雲仙岳が国内第一号で国立公園に指定された翌年の昭和10年、旧国鉄佐賀線の鉄橋として筑後川河口にかけられた全長507mの可動式鉄橋で、佐賀県佐賀市との間を結んでいますが、橋を渡る際に雲仙岳が眺められます。現存する可動橋の中では全国最古で、平成15年に国の重要文化財に指定されていますが、有明海の干満差に対応して、列車と船舶それぞれの通行時に可動桁を上下させていました。佐賀線は昭和62年に廃止されましたが、地域の方々の強い希望により平成8年に遊歩道として復活しています。

本市は、480年余の歴史を有する“大川家具”の生産地で、家具生産高は全国一を誇りますが、これは日田地方から筏で筑後川を下って運ばれる材木の集積地であった地の利を活かしたものとされます。阿蘇山の北外輪山(黒川温泉周辺)に端を発する筑後川は、熊本県阿蘇小国地方、大分県日田地方を経て筑後地方に入りますが、阿蘇小国地方の最高峰・涌蓋(わいた)山や日田地方の最高峰・釈迦岳(別名:普賢岳)からも雲仙岳が眺められます。また、本市を含む筑後地方では、筑後川下流の低湿地を利用したイグサの生産・加工が盛んで、“花ござ”(色柄の付いたゴザ製品)の生産量は国内の約95%を占めますが、地域伝統の掛川織の一般向け商品名には、九州をはじめ国内各地の名所の地名が採用され、阿蘇山や雲仙岳を表す地名も登場します。

筑後川下流には有明海の干潟が広がっていますが、全国一の規模を誇る有明海の干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を筑後川などが日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、大川市内を旅してみませんか？

●大川市の観光情報はこちら ⇒ 大川観光協会 <http://www.okawa-kk.com/>



筑後川左岸から